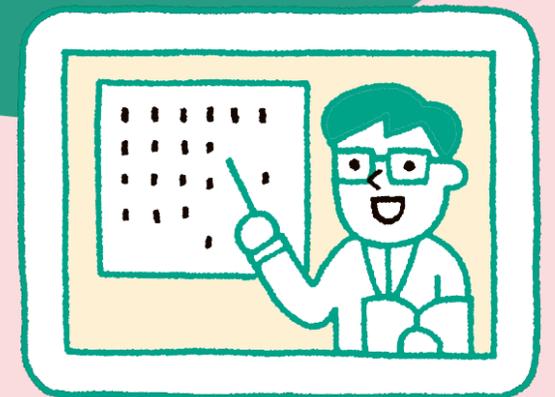
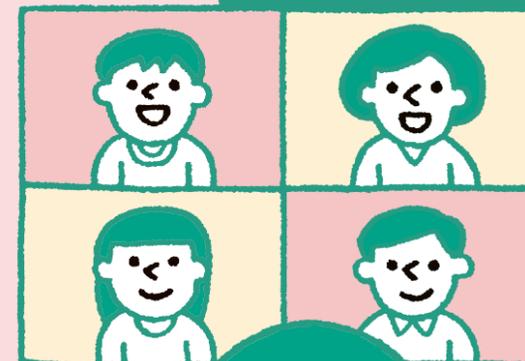


# 何のため？ 何をする？ どう進める？

## 大学のDX

コロナ禍は多くの大学に諸活動のデジタル化を促した。中でも教育と学生募集活動は、この1年、Webを駆使し、何とか成し遂げた大学が多だろう。これを緊急時対応にとどめるか、まったく新しい大学の価値創造につなげるか、「大学のDX」について、考えてみる。

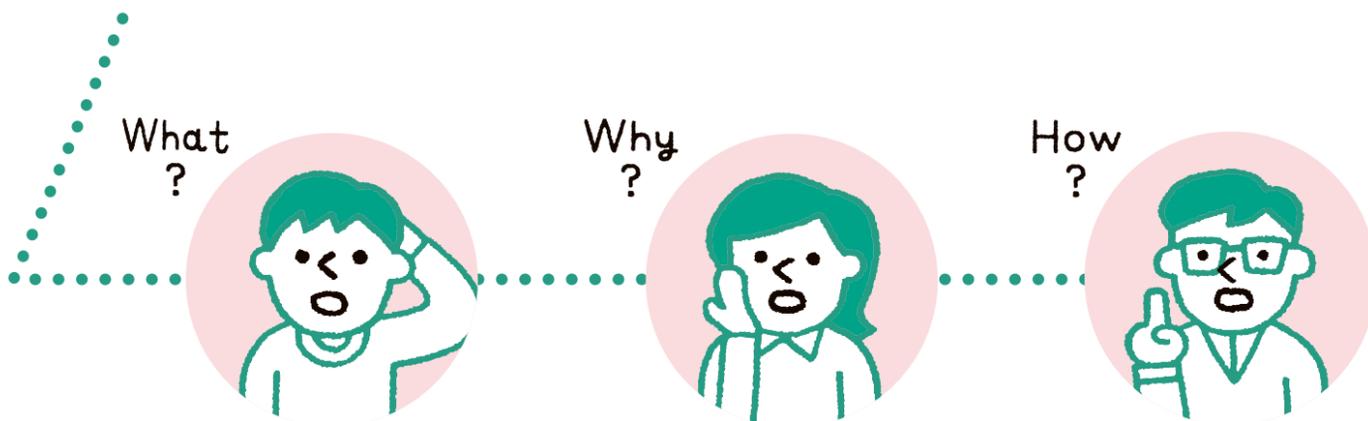


そもそもDXとは何なのか？  
大学との関係は？

「DX（デジタルトランスフォーメーション）」とは、元々はウメオ大学（スウェーデン）のエリック・ストルターマン教授が2004年に「ICTの浸透が、人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させる」と提唱したことが起源だと言われている。社会や環境が大きく変化の中で、まず産業界がさまざまなデジタル技術を使って、業務の効率化のみならず、新たなビジネスを生み出しつつある。日本では経済産業省が2018年に「DXレポート」で産業界におけるDXの定義を定めている（下記参照）。

DXに至るには、2つのステップがある。まずは、今あるアナログ情報や手段をデジタル化する「デジタルイゼーション」。例えば電子書籍などがそれにあたる。その次のステップとして、既存の価値感や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションを創出する「デジタルライゼーション」がある。サブスクリプションなどは従来の商品サービスを買うというビジネスモデルを大きく変えた例だ。

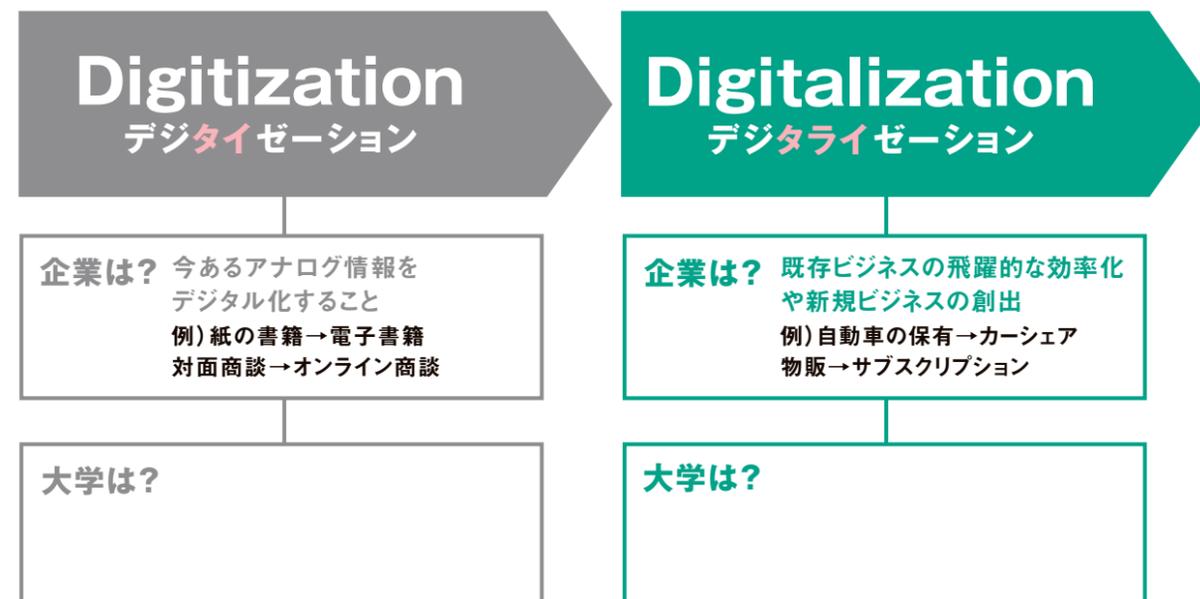
大学の場合はどうだろうか？ 加速する少子化、大きな社会変化の中、経済産業省の定義にあるように、大学もデータとデジタル技術を使い「業務そのものや、組織、プロセス、大学文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」は大いに求められるのではないだろうか。



## DXとは…？ Digital Transformation

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

出典：経済産業省「デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するためのガイドライン」



\* 総務省「平成30年版 情報通信白書」